

令和7年度  
知床ルシャ川等における  
サケ類の遡上数等調査事業  
報告書



令和8年（2026年）3月

北海道森林管理局

公益財団法人 知床財団



## 【目次】

1. はじめに.....	1
2. 方法.....	2
2-1. 調査河川.....	2
2-2. 遡上数調査.....	3
2-3. 産卵床調査.....	5
2-4. 分析.....	7
2-4-1. 遡上数.....	7
2-4-2. 産卵床数.....	9
3. 調査結果.....	10
3-1. 遡上数調査.....	10
3-2. 産卵床調査.....	11
4. 分析結果.....	12
4-1. 遡上数の分析.....	12
4-2. 産卵床数の分析.....	14
5. 付表.....	20

## 1. はじめに

知床は海域と陸域の生態系の相互作用が高く評価され、2005年に世界自然遺産に登録されている。遺産地域の管理者である環境省、林野庁、文化庁および北海道が定める知床世界自然遺産地域管理計画では、遺産地域を科学的知見に基づいて順応的に管理するため、長期的なモニタリングを実施することとしている。平成24年（2012年）には長期モニタリング計画が策定され、令和4年（2022年）からは第2期計画の運用が始まっている。

本事業は、長期モニタリング計画のモニタリング項目のうちの「河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング」に関連した調査の1つに位置付けられている。その手法は「ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川にてカラフトマス等の遡上量を推定するため、遡上中の親魚数、産卵床数の調査及び稚魚の降下数調査を実施」とされている。そこで、モニタリングに係る調査の対象となっている3河川のうち、ルシャ川およびテッパンベツ川におけるサケ科魚類の遡上状況把握を目的として、カラフトマスの遡上数および産卵床数調査を実施した。

なお、令和3年（2021年）までの遡上数調査の実施期間および回数は8月下旬から10月中下旬に18-19回であったが、隔年で稚魚降下数調査を実施するとともに継続性を重視した上で省力化することを目的とした検討が河川工作物アドバイザー会議委員および事務局によりなされた。具体的には、過去の調査データ（2012, 2015, 2017, 2019年）による台形近似法（以下、AUC法）に基づく遡上数推定値と調査における日間カウント数合計値との間に高い相関が認められる調査回と調査回数を決定係数によるランク付けによって行われた。本報告では、この過去の調査データによる調査カウント数合計値と遡上数推定値との回帰式を用いた推定およびAUC法による推定を行った。

## 2. 方法

### 2-1. 調査河川

調査対象河川は、知床半島斜里町側のルシャ地区を流れるルシャ川およびテッパンベツ川である（図1）。遡上数調査は、両河川の下流部に調査ラインを設定して実施した。産卵床数調査は、両河川ともに河口から橋（河口から数十 m 上流の作業道に架かっている）までと、橋を基準（0m）としたときにルシャ川は上流 3,200m、テッパンベツ川は上流 2,100m までの区間で実施した。なお、調査時には保安要員 1 名を配置した。

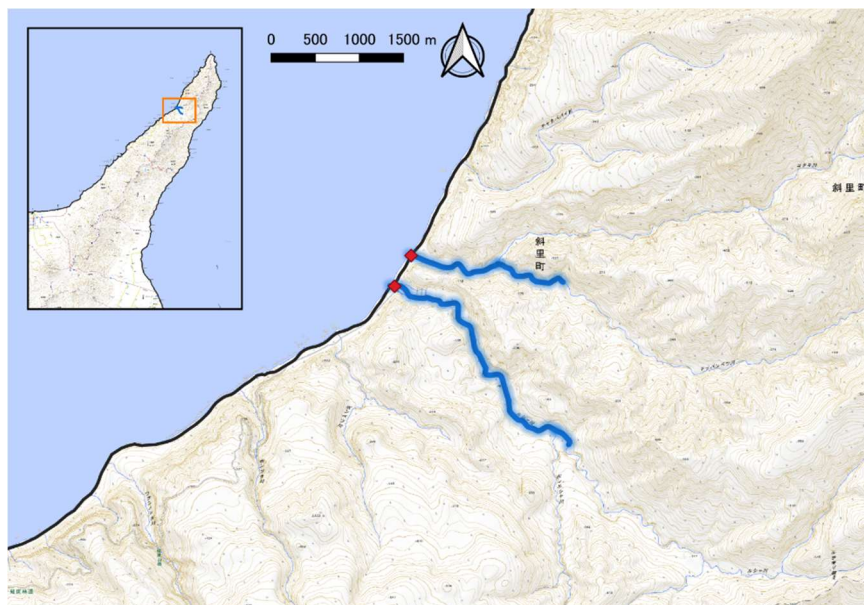


図1. ルシャ川およびテッパンベツ川の調査範囲（各河川の下流部の赤丸が遡上数調査の実施地点、太い青線の部分が産卵床数調査区間を示す）

## 2-2. 遡上数調査

### 調査期間および回数

ルシャ川およびテッパンベツ川におけるカラフトマスの遡上数調査は、9月第2週から9月第5週までの4週間に実施する予定であったが、8月14日に羅臼岳において発生したヒグマによる人身事故の2次災害を防ぐため、知床世界自然遺産区域への入林が8月18日から9月18日まで一時取りやめとなった。そのため調査は9月26日より開始し、河川ごとに週2回（調査間隔は基本的に2～3日）、10月18日まで1河川当たりのべ8回実施した。実施日は9月26日、29日、10月2日、5日、9日、11日、15日および18日である。各日の天候等状況は付表1および付表2(a, b)の通りであった。

### カラフトマスのカウント方法

両河川において、カラフトマスの移動（遡上と降下）をカウントする際に、基準となるラインを設定した。ルシャ川では9月21日の増水により流路が変わり河川水の大部分が河床路上を流れ、その下流側の河床が低下したために落差が生じてカラフトマスの遡上障壁となった。そのため調査ラインを河床路の下流側約10m付近に設定してカウントした。10月7日からはサケ科魚類の遡上が可能となるよう河床路の左岸側に埋没していたコルゲート管を通水させるという応急処置がなされた。そのため、10月9日からは調査ラインをコルゲート管の上流側約2mとした（図1、写真1）。テッパンベツ川では河口に近い下流部の作業道に設置された橋から約3m下流側に設定した（図1、写真2）。

遡上数は「基準としたラインより下流側から上流側へ移動した魚の数」、降下数は「上流側から下流側へ移動した魚の数」とし、調査当日の遡上数と降下数のそれぞれの合計数の差分を「日間カウント数」と定義した。

カウントは8時台から16時台までの時間内で、2時間毎に20分間実施し、遡上数・降下数をそれぞれ記録した。



写真1. ルシャ川に設定した遡上数カウントのための調査ライン（白線）



写真2. テッパンベツ川に設定した遡上数カウントのための調査ライン（白線）

## 2-3. 産卵床調査

### 調査実施日

河川内のカラフトマス産卵床数カウントは、過去に実施した調査と同様に産卵床数が最多となる時期である9月下旬および10月上旬に各1回実施することとし、9月23日（1回目）および10月6日（2回目）とした。両日の天候等状況は、付表1および付表2（c）の通りであった。

### 産卵床のカウント方法

両河川の作業道にかかる橋を基準（0m）として、上流方向にレーザー距離計を用いて100m間隔で区間を設定し、区間ごとに産卵床の全数をカウントした。また各区間の河床面積を算出するために、区間の境界ごとにテープメジャーを用いて河床幅を計測した。ルシャ川では橋から上流3,200mまでの32区間、テッパンベツ川では橋から上流2,100mまでの21区間を遡行して調査した（図2、写真3）。なお、両河川の河口から橋までは0区画目とし、同様に距離と河床幅・産卵床数のカウントを実施した。

産卵床のカウント基準は、下記①～④の条件に基づいた。

- ①. 産卵床の大きさと形状、礫の状況などから産卵が完了していると特定できるもののみをカウントの対象とする。
- ②. 産卵床を造成中に何らかの原因により途中で中止されたと思われるものはカウントしない。（試し掘り及びヒグマの捕食の可能性等を考慮する。）
- ③. 調査時に産卵床を造成中で既に産卵床として十分な大きさを形成しているものはカウントの対象とする。（産卵行動中のものも含む。）
- ④. 産卵床が密集し河床全体が掘り起こされている場所では、産卵床として形状が確認できるもののみをカウントし、面積などからの推定数でカウントは行わない。



図2. ルシャ川およびテッパンベツ川におけるカラフトマス産卵床数調査の範囲



写真3. 産卵床調査の様子

## 2-4. 分析

### 2-4-1. 遡上数

#### 遡上数の推定

2012年以降に実施されてきたAUC法により推定されたカラフトマスの遡上数は、調査期間中の日間カウント数合計値（8時台、10時台、12時台、14時台および16時台の総遡上カウント数から総降下カウント数を差し引いた値）との高い相関がある。この相関は、8月下旬から10月中下旬までの遡上期間を網羅した計18～19回の調査を実施しなくても、より短い期間の少ない調査回数で遡上ピークの時期がカバーされれば同様の関係が維持される可能性が高い。そこで2012年、2015年、2017年および2019年のデータが用いられ、遡上のピークを含む少ない調査回数で「日間カウント数合計値」と「AUC法による推定遡上数」との間に高い相関が認められる一定期間の連続調査回と回数について検討がなされた（2013年のみカラフトマスの豊漁年のため飛び値となったため、推定精度を高めるために検討対象外とされた）。この検討では長期モニタリングへ位置付けられている3河川（ルシャ川、テッパンベツ川およびルサ川）のそれぞれについて調査回および回数の総当たりで決定係数とともに算出された。そして決定係数によって精度の高さがランク付けされた。ランク付けにより、ルシャ川およびテッパンベツ川では4～11回目、ルサ川では5～12回目または6～12回目の調査回で精度の高い推定が出来ることが明らかになった。そこで3河川ともに4～11回、すなわち9月第1～4週に週2回、計8回の調査で統一されることとなった。ルシャ川およびテッパンベツ川の回帰式は以下の通りである。

$$\text{ルシャ川} : y = 42.534x + 1898.4$$

$$\text{テッパンベツ川} : y = 41.504x + 311.15$$

y : AUC法による推定遡上数、x : 4～11回目日間カウント数の合計値

ただし、2025年は2-2へ記述した理由により調査を9月26日から8回実施することとなったため、下記の10～17回目の回帰式を用いた（図3）。

$$\text{ルシャ川} : y = 59.557x + 5051.2$$

$$\text{テッパンベツ川} : y = 43.564x + 2138.0$$

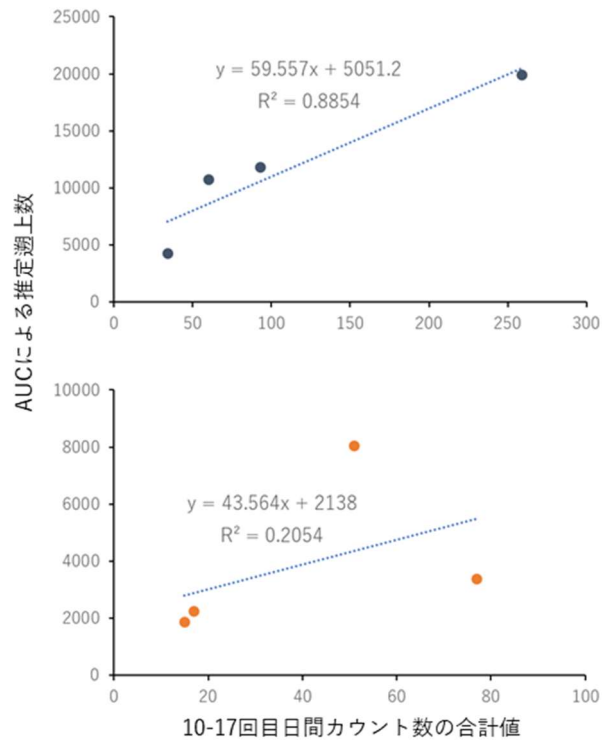


図 3. 台形近似法（AUC 法）によるカラフトマスの推定遡上数と 10～17 回目の日間カウント数合計値の関係（上図：ルシャ川、下図：テッパンベツ川）

なお、10～17 回目のカウント数データを使用し、横山ほか（2010）※に従い AUC 法によるカラフトマスの推定遡上数についても算出を試みた。

#### 過去の推定遡上数との比較

本業務のルシャ川およびテッパンベツ川における推定遡上数を 2012 年以降の長期モニタリングに係る調査で得られた資料と比較した。

※ 横山雄哉・越野陽介・宮本幸太・工藤秀明・北田修一・帰山雅秀（2010）知床半島ルシャ川におけるカラフトマス *Oncorhynchus gorbuscha* の産卵遡上動態評価. 日本水産学会誌 76(3),383-391.

## 2-4-2. 産卵床数

### 産卵床密度の算出、産卵床分布図等の作成

ルシャ川およびテッパンベツ川において実施したカラフトマスの産卵床数調査の結果を用いて、100m 区間ごとの産卵床密度を算出するとともに、その分布図（グラフ）を作成した。

### ダムの改良効果の検証

ルシャ川では 2019 年から北海道により 3 基のダムの改良が実施され、2024 年に完了している。過去に実施されたカラフトマスの産卵床調査の結果と比較することで、ダム改良に対する経過をみた。この際、ルシャ川を河口から第 1 ダム下、ダム区間（第 1 ダム上から第 3 ダム下）、第 3 ダム上から 3,200m の 3 区間に分け、各区間における産卵床数および調査区間全体に占める産卵床数の割合について経年変化を調べた。

### 過去の産卵床数、産卵床密度との比較

河川全体における産卵床数と産卵床密度について、過去の調査結果と比較した。

### 3. 調査結果

#### 3-1. 遡上数調査

##### 遡上数および降下数

調査実施日ごとのカラフトマスの日間カウント数（目視によりカウントされた 8・10・12・14・16 時台各 20 分間（計 100 分間）の遡上数－降下数の値）はルシャ川およびテッパンベツ川ともに調査期間を通して 0 であった（図 4）。

両河川における各調査日の 20 分間ごとの遡上数および降下数は、付表 3 の通りである。

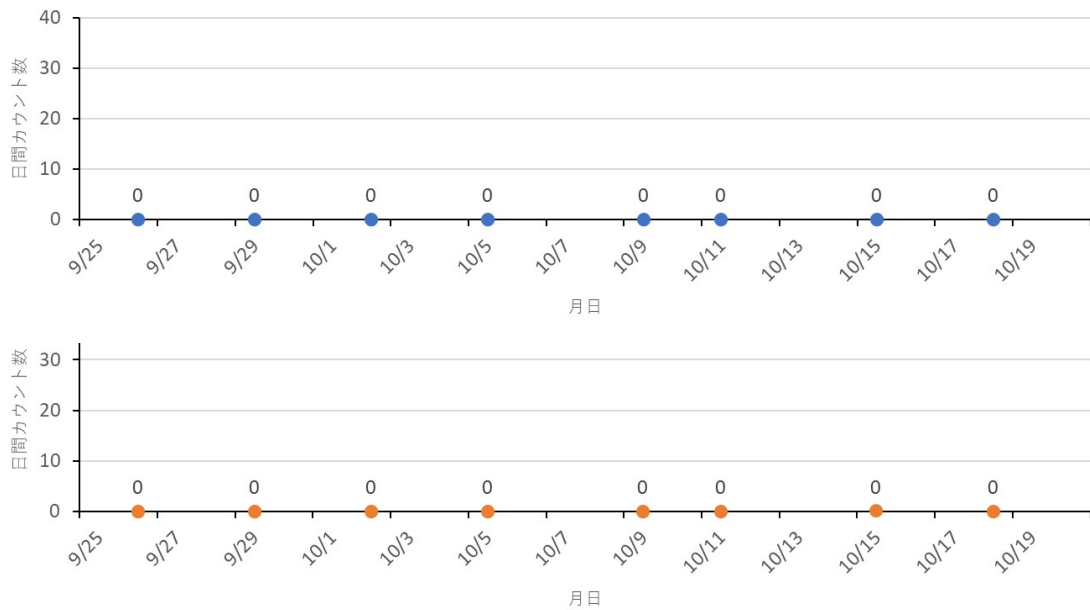


図 4. ルシャ川（上）およびテッパンベツ川（下）における調査日ごとのカラフトマス日間カウント数（目視によりカウントされた 8・10・12・14・16 時台各 20 分間（計 100 分間）の遡上数－降下数の合計値）

### 3-2. 産卵床調査

#### ルシャ川・テツパンベツ川

9月23日および10月6日にルシャ川およびテツパンベツ川でカラフトマスの産卵床を確認することはできなかった。ルシャ川については調査を実施した両日ともに河床路が遡上障壁となっていたが、河床路下流側においてもカラフトマスの産卵床を確認することはできなかった。両河川の河口から上流域まで計測した川幅は、付表4(a,b)の通りである。

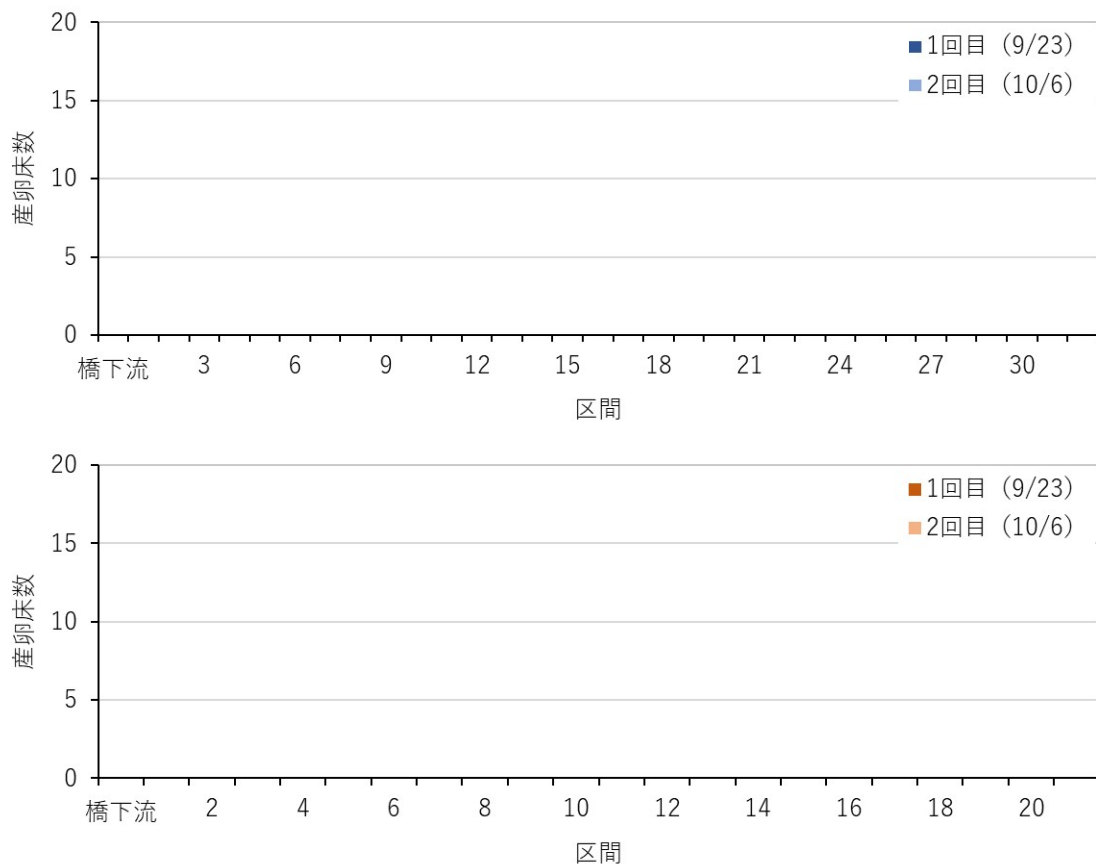


図5. ルシャ川（上）およびテツパンベツ川（下）における調査日ごとの区間別カラフトマスの産卵床数

## 4. 分析結果

### 4-1. 遡上数の分析

#### 遡上数の推定結果

結果 3-1 で示した通り、ルシャ川およびテッパンベツ川におけるカラフトマスの日間カウント数の全調査回の合計値はともに 0 であった。方法 2-4-1 で示した回帰式へ当てはめた場合、両河川の数値は切片となりそれぞれ 5,051 および 2,138 となった。しかし、回帰式の決定係数 ( $R^2$  値) はルシャ川で 0.8854、テッパンベツ川で 0.2054 と相関が低いことに加え、結果 3-2 では産卵床を確認することはできなかったこと、および付表 2 (a, b) の調査日ごとの実施状況において調査ライン周辺でカラフトマスを目視した日はなかったことを考慮すると、両河川の推定遡上数はともに 0 個体とすることが適当であると考えられた。

また、2021 年までの手法である AUC 法による推定遡上数についても 0 個体となった。

#### 過去の推定遡上数との比較

ルシャ川およびテッパンベツ川におけるカラフトマスの遡上数の推定は、知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画の調査として位置付けられた 2012 年から行われている

(表 1)。2021 年以前の推定には AUC 法が用いられてきたが、2023 年より過去の調査結果を基にした日間カウント数合計値と推定遡上数の回帰式より算出することとなった。

ルシャ川およびテッパンベツ川のカラフトマスの推定遡上数は 2020 年以降に急減し、2025 年に実施した本事業では 0 個体となった。水産研究・教育機構水産資源研究所さけます部門資源増殖部が公表している 2025 年のカラフトマスの北海道来遊数は 1989 年以降最少の 2.5 万個体であった([https://www.fra.go.jp/shigen/salmon/sokuhou/r07salmon/R7comment\\_1130\\_og.pdf](https://www.fra.go.jp/shigen/salmon/sokuhou/r07salmon/R7comment_1130_og.pdf))。このことから、両河川の遡上状況は北海道への来遊数の減少傾向に同調しているものとみなされる。今後ともルシャ川およびテッパンベツ川のカラフトマスの推定遡上数の推移については、北海道の来遊数とともに考慮する必要がある。

表 1. 本調査を含む過去のルシャ川およびテッパンベツ川における  
カラフトマスの推定遡上数

年	ルシャ川		テッパンベツ川		
	推定遡上数	標準誤差	推定遡上数	標準誤差	
H24	2012	19,905	2,885	3,369	570
H25	2013	58,236	6,366	43,332	6,558
H26	2014				
H27	2015	4,287	502	1,860	222
H28	2016				
H29	2017	10,737	1,007	2,241	286
H30	2018				
H31(R1)	2019	11,838	2,047	8,052	1,481
R2	2020	66,330	17,937	20,643	4,924
R3	2021	10,686	2,346	5,232	1,292
R4	2022				
R5	2023	3,812	-	1,722	-
R6	2024				
R7	2025	0	-	0	-

※R2 (2020) 年データは環境研究総合推進費によるもの

## 4-2. 産卵床数の分析

### 産卵床密度

ルシャ川およびテッパンベツ川における調査区間ごとの河床幅から算出した河床面積は付表4 (a, b) の通りである。両河川ともに9月23日および10月6日に全調査区間でカラフトマスの産卵床を確認することはできなかった。そのため両河川、両日の全調査区間の産卵床密度は0/m<sup>2</sup>となった(図6, 7)。

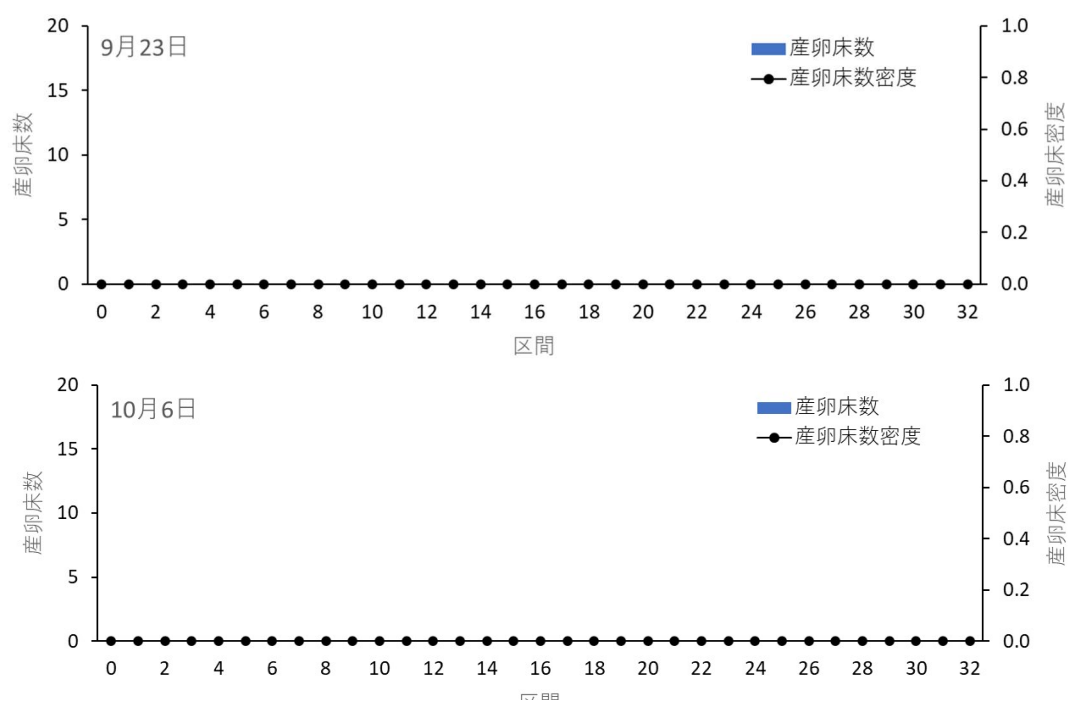


図6. ルシャ川におけるカラフトマスの産卵床分布図(区間別・調査日別(上: 9月23日、下: 10月6日)の産卵床数および産卵床密度)

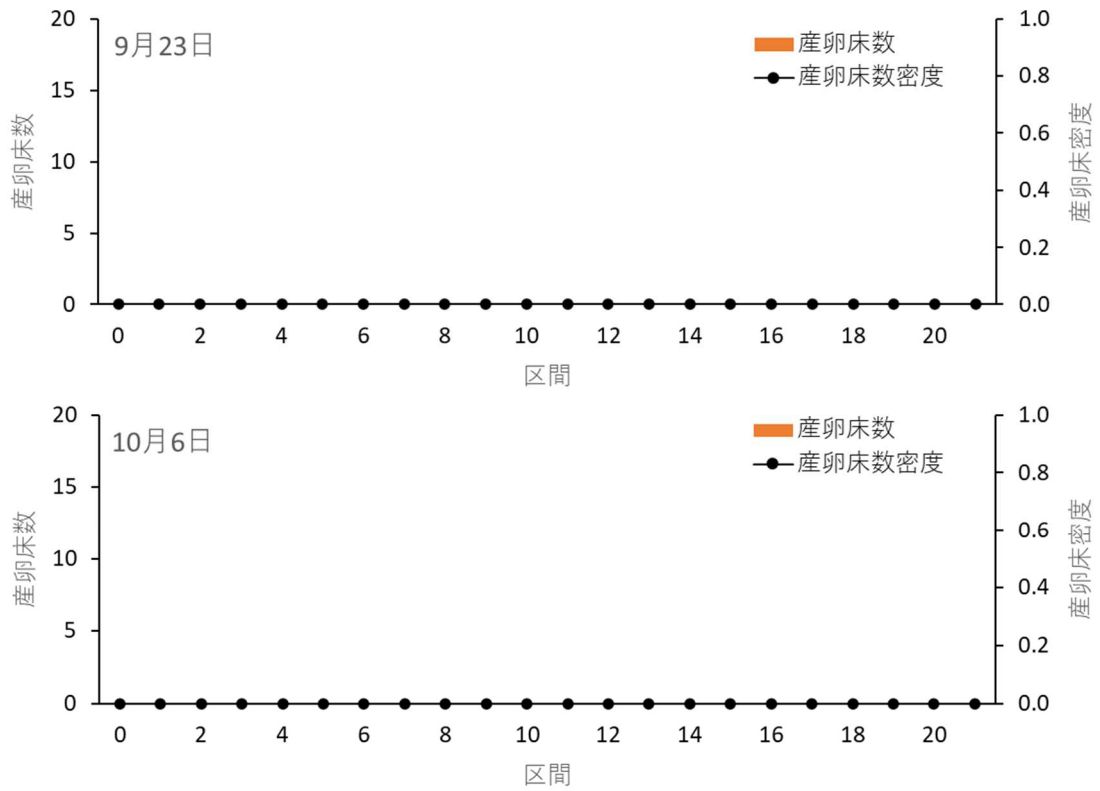


図7. テッパンベツ川におけるカラフトマスの産卵床分布図（区間別・調査日別（上：9月23日、下：10月6日）の産卵床数および産卵床密度）

### ダムの改良効果の検証

ルシャ川における治山ダムの改良工事は2019年に始まり、2024年に完了した。そして改良開始4年目の2022年からはサケ類の移動を阻害するような落差はない状態となっている。本事業においてはカラフトマスの産卵床を確認することはできなかったことに加え、3基のダムの下流に位置する河床路が遡上障壁となっていたため、カラフトマスの産卵に対するダム改良の効果は不明である（図8）。ただし北海道事業の河川工作物改良効果検証調査として2025年の8月下旬から11月中旬に7回実施された同手法の産卵床調査では、8月26日に49床、9月3日に20床および9月10日に25床が確認されている

（令和7年度第2回河川工作物アドバイザー会議資料参照）。カラフトマスの遡上および産卵は従来のピークとなる期間が早まっている可能性が指摘されている。そのため、カラフトマスに対するダムの改良効果を検証するためのデータを得るためには8月下旬および9月上旬の調査の実施が必要となる。なお、北海道事業において確認されたカラフトマスの産卵床は、3調査日ともに全てダム区間の上流側であった。2015年の第39回世界遺産委員会決議文の一部には、治山ダムの改良により表流水と伏流水の正常な流れを回復させるとともに河川の枝分かれや蛇行化を促進することでサケ科魚類の産卵環境を改善するよう勧告がなされている。そのため、ダム区間の産卵環境が改善されているか確認するための指標として、当区間の産卵床数の変化および河川全体に占める割合のモニターが改良効果を検証する上で重要となる。

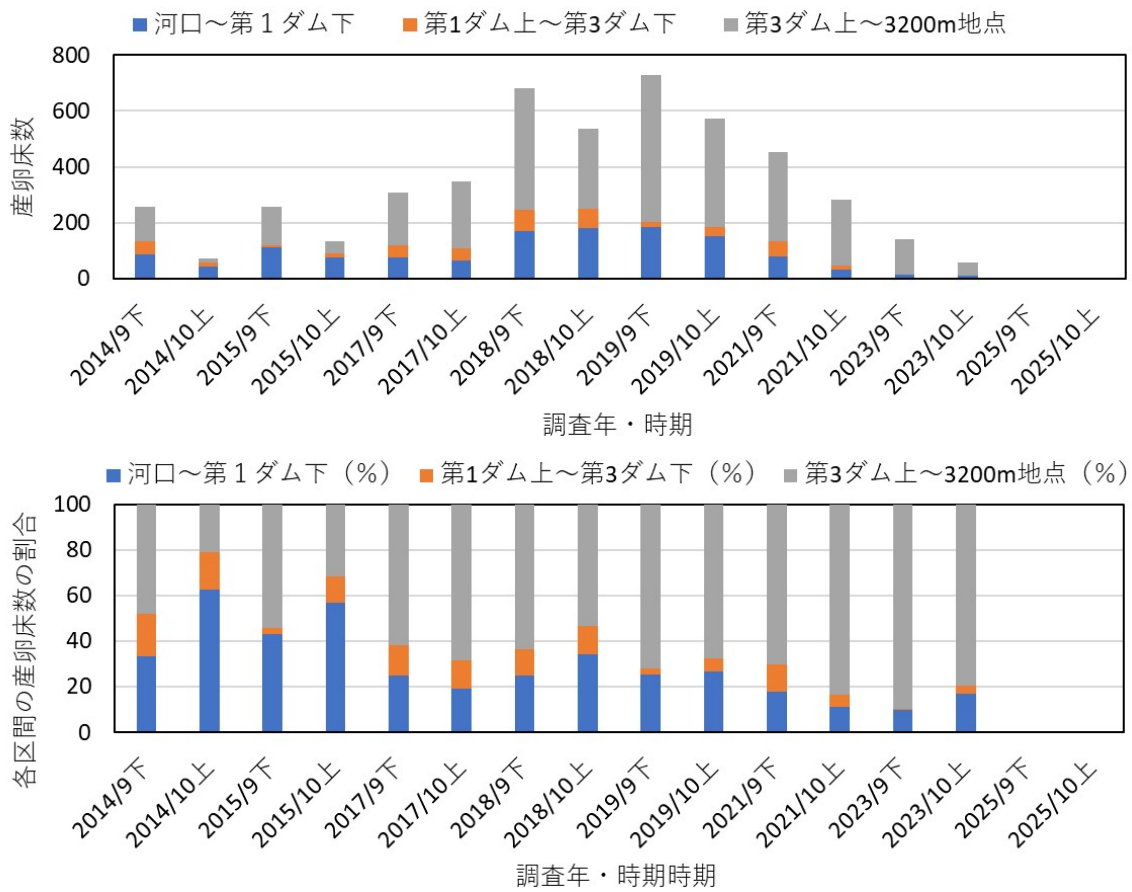


図8. ルシャ川におけるダム上下流およびダム間のカラフトマス産卵床数（上）と産卵床数割合（下）の経年変化

## 過去の産卵床数および産卵床密度との比較

ルシャ川およびテッパンベツ川におけるカラフトマスの産卵床調査は、本調査と同様の範囲と時期において2012年以降、基本的に2年に1度の頻度で各年2回ずつ実施されている（2018年および2024年は知床財団独自調査）。河川工作物アドバイザー会議では、産卵期間中における産卵床の総数を把握することは困難であるため、各年2回ずつの調査のうち、産卵床数が多い調査日の数値を当年の産卵床数の目安として評価することとなっている。ルシャ川については10ヶ年分、テッパンベツ川については9ヶ年分の調査結果から、両河川ともに2019年以降、特に2021年より激減し、2025年には0となった（表2）。

他方で「ダムの改良効果の検証」へ詳述した通り、ルシャ川については北海道事業において8月下旬から9月中旬にかけてカラフトマスの産卵床が20～49床確認されており（産卵床密度は0.0006～0.0016/m<sup>2</sup>）、従来の遡上、産卵がピークとなる期間が早まっている可能性が指摘されていることから、調査時期については検討が必要である。なお、テッパンベツ川の産卵状況については8月下旬から9月中旬の調査が実施されておらず不明である。

表2. ルシャ川およびテッパンベツ川における調査実施年の産卵床数および産卵床密度（太字は各年の産卵床数の多い方を示す、2018年および2024年は知床財団独自調査）

年	ルシャ川				テッパンベツ川				
	1回目		2回目		1回目		2回目		
	産卵床数	密度	産卵床数	密度	産卵床数	密度	産卵床数	密度	
H24	2012	326	0.010	<b>379</b>	<b>0.011</b>	115	0.006	<b>273</b>	<b>0.015</b>
H25	2013	1,469	0.043	<b>2,115</b>	<b>0.058</b>	1,052	0.059	<b>1,470</b>	<b>0.083</b>
H26	2014	-	-	-	-	-	-	-	-
H27	2015	<b>259</b>	<b>0.006</b>	134	0.003	<b>160</b>	<b>0.008</b>	69	0.003
H28	2016	-	-	-	-	-	-	-	-
H29	2017	307	0.009	<b>348</b>	<b>0.010</b>	190	0.010	<b>211</b>	<b>0.011</b>
H30	2018	<b>682</b>	<b>0.019</b>	536	0.015	-	-	-	-
H31(R1)	2019	<b>728</b>	<b>0.021</b>	574	0.017	187	0.012	<b>249</b>	<b>0.017</b>
R3	2021	<b>454</b>	<b>0.014</b>	283	0.008	100	0.006	<b>113</b>	<b>0.007</b>
R5	2023	<b>143</b>	<b>0.004</b>	59	0.002	<b>44</b>	<b>0.003</b>	41	0.003
R6	2024	1	0.00003	<b>6</b>	<b>0.00019</b>	<b>3</b>	<b>0.0002</b>	0	0.000
R7	2025	0	0.000	0	0.000	0	0.000	0	0.000

### カラフトマスの再生産効率および回帰率

2019年よりルシャ川およびテッパンベツ川において実施されてきたサケ科魚類を対象とした遡上数調査および稚魚降下数調査より得られた結果から、河川環境の変化およびカラフトマス個体群の動態を把握するため、親魚回帰年ごとの再生産効率および稚魚年級（稚魚の生まれ年）ごとの回帰率を算出している。本事業によって得られたルシャ川およびテッパンベツ川の推定遡上数はともに0だったことから、2024年級稚魚の回帰率は両河川ともに0となった（表3右、表4右）。回帰率の高低についてはカラフトマスの外洋生活期の水温および餌量等の生息環境に影響される部分が大きいと推測されるが、本事業における調査はカラフトマスの遡上数および産卵床数が激減している現状を連続して記録するデータとして極めて重要である。

表3. ルシャ川におけるカラフトマスの再生産効率（左）および回帰率（右）（太字は本事業によって得られた数値）

親魚の 回帰年	親魚数	翌年の 稚魚数	再生産効率 (翌年の稚魚数/親魚数)	稚魚の年級	稚魚数	翌年の 回帰親魚数	回帰率 (回帰親魚数/稚魚数)
2019	11,838	414,885	35.05	2020	414,885	10,686	0.03
2020	66,330	67,883	1.02	2021	67,883		
2021	10,686	21,200	1.98	2022	21,200	3,812	0.18
2022				2023			
2023	3,812	-	-	2024	-	<b>0</b>	<b>0.00</b>
2024				2025			
2025	<b>0</b>						

表4. テッパンベツ川におけるカラフトマスの再生産効率（左）および回帰率（右）（太字は本事業によって得られた数値）

親魚の 回帰年	親魚数	翌年の 稚魚数	再生産効率 (翌年の稚魚数/親魚数)	稚魚の年級	稚魚数	翌年の 回帰親魚数	回帰率 (回帰親魚数/稚魚数)
2019	8,052	151,733	18.84	2020	151,733	5,232	0.03
2020	20,643	29,291	1.42	2021	29,291		
2021	5,232	33,555	6.41	2022	33,555	1,722	0.05
2022				2023			
2023	1,722	130,309 (5,956-254,662)	75.67 (3.46-147.89)	2024	130,309 (5,956-254,662)	<b>0</b>	<b>0.00</b>
2024				2025			
2025	<b>0</b>						


## 5. 付表


付表1. ルシャ川およびテッパンベツ川における遡上数調査および産卵床数調査実施時の状況

調査名	回次	日付	天気	風力	気温 (°C)	水温 (°C)	
						ルシャ川	テッパンベツ川
遡上数調査	1	9/26	快晴	微風	20.1	12.5	13.2
	2	9/29	晴れ	弱風	18.8	12.2	13.2
	3	10/2	曇り/雨	微風	17.1	11.5	13.4
	4	10/5	快晴	弱風	20.3	12.5	13.4
	5	10/9	晴れ	強風	10.9	9.3	10.3
	6	10/11	晴れ	強風	10.2	7.5	8.3
	7	10/15	晴れ	弱風	10.2	8.6	9.2
	8	10/18	曇り	強風	12.7	9.4	10.1
産卵床数調査	1	9/23	快晴	微風	18.9	13.1	12.8
	2	10/6	晴れ	弱風	15.0	11.6	13.3


※水温、気温は、調査開始前に計測


付表 2 (a). ルシャ川における遡上数調査日ごとの実施状況

第1回			
調査河川名	ルシャ川	天候	快晴
調査日	2025年9月26日（金）	気温	20.1℃
調査時刻	07:30 - 16:25	水温	12.5℃
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>ポンプタ川左岸に車を駐車し、ルシャ川およびテッパンベツ川までを徒歩移動した。9/21の増水によりできた河床路下流側の落差（約1.3m）が魚止めとなっており、その約5m下流側を調査ラインとして調査を実施した。終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスの姿はなかった。</p>		


第2回			
調査河川名	ルシャ川	天候	晴れ
調査日	2025年9月29日（月）	気温	18.8℃
調査時刻	07:30 - 16:25	水温	12.2℃
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>ポンプタ川左岸に車を駐車し、ルシャ川およびテッパンベツ川までを徒歩移動した。調査ラインは前回調査時と同様とした。終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスの姿はなかった。</p>		


付表 2 (a). 続き

第3回			
調査河川名	ルシャ川	天候	曇り/雨
調査日	2025年10月2日 (木)	気温	17.1°C
調査時刻	07:30 - 16:25	水温	11.5°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>ポンプタ川左岸に車を駐車し、ルシャ川およびテツパンベツ川までを徒歩移動した。調査ラインは前回までの調査時と同様とした。終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスの姿はなかった。河床路直下に5個体のサケを確認した。</p>		

第4回			
調査河川名	ルシャ川	天候	快晴
調査日	2025年10月5日 (日)	気温	20.3°C
調査時刻	07:30 - 16:25	水温	12.5°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>ポンプタ川左岸に車を駐車し、ルシャ川およびテツパンベツ川までを徒歩移動した。昼過ぎに重機が道路整備をしながらルシャ川まで到達、ポンプタ川～ルシャ川間が車両通行可能となった。調査ラインは前回までの調査時と同様とした。終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスの姿はなかった。河床路直下に5個体のサケとその産卵床1床を確認した。調査ラインと河口までの間に約40個体のサケを確認した。</p>		

付表 2 (a). 続き

第5回			
調査河川名	ルシャ川	天候	晴れ
調査日	2025年10月9日（木）	気温	10.9℃
調査時刻	07:30 - 16:25	水温	9.3℃
調査概要・ 周辺写真	 <p>2025.10.09 07:17</p> <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>10月6日にルシャ川の旧橋の場所に埋設されたコルゲート管が通水、河床路上を流下していた流路が切り替えられたことによりサケ類の遡上が可能となった。調査ラインをコルゲート管周辺として調査を実施した。付近にカラフトマスの姿はなかった。海が荒れて波が河床路まで達していた。</p>		


第6回			
調査河川名	ルシャ川	天候	晴れ
調査日	2025年10月11日（土）	気温	10.2℃
調査時刻	07:30 - 16:25	水温	7.5℃
調査概要・ 周辺写真	 <p>2025.10.11 07:48</p> <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>調査ラインをコルゲート管周辺として調査を実施した。付近にカラフトマスの姿はなかった。終日にわたりヒグマの出没はなかった。</p>		


付表 2 (a). 続き

第7回			
調査河川名	ルシャ川	天候	晴れ
調査日	2025年10月15日 (水)	気温	10.2°C
調査時刻	07:30 - 16:25	水温	8.6°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>調査ラインをコルゲート管周辺として調査を実施した。調査開始前にヒグマ雌成獣1頭が付近にいたが、テッパンベツ川方向へ移動し調査に影響はなかった。また調査ライン付近にカラフトマスの姿はなかった。</p>		


第8回			
調査河川名	ルシャ川	天候	曇り
調査日	2025年10月18日 (土)	気温	12.7°C
調査時刻	07:30 - 16:25	水温	9.4°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>調査ラインをコルゲート管周辺として調査を実施した。調査ライン付近にカラフトマスの姿はなかった。</p>		


付表 2 (b). テッパンベツ川における遡上数調査日ごとの実施状況

第 1 回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	快晴
調査日	2025年9月26日 (金)	気温	20.1°C
調査時刻	08:30 - 17:00	水温	13.2°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>2023年と同様に作業道に架かる橋の下流側を調査ラインとした。終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスを確認することはできなかった。</p>		

第2回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	晴れ
調査日	2025年9月29日 (月)	気温	18.8°C
調査時刻	08:30 - 17:00	水温	13.2°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスを確認することはできなかった。</p>		


付表 2 (b). 続き

第3回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	曇り/雨
調査日	2025年10月2日 (木)	気温	17.1°C
調査時刻	08:30 - 17:00	水温	13.4°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスを確認することはできなかった。</p>		


第4回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	快晴
調査日	2025年10月5日 (日)	気温	20.3°C
調査時刻	08:30 - 17:00	水温	13.4°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスを確認することはできなかった。</p>		


付表 2 (b). 続き

第5回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	晴れ
調査日	2025年10月9日 (木)	気温	10.9°C
調査時刻	08:30 - 17:00	水温	10.3°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>2025.10.09 08:51</p> <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスを確認することはできなかった。</p>		

第6回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	晴れ
調査日	2025年10月11日 (土)	気温	10.2°C
調査時刻	08:30 - 17:00	水温	8.3°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>2025.10.11 08:59</p> <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスを確認することはできなかった。サケについては橋上流方向約15mに1個体と1床、橋下流側に3個体を確認した。</p>		

付表 2 (b). 続き

第7回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	晴れ
調査日	2025年10月15日 (水)	気温	10.2°C
調査時刻	08:30 - 17:00	水温	9.2°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>2025.10.15 08:50</p> <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスを確認することはできなかった。サケについては橋下流側に6個体を確認した。</p>		

第8回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	曇り
調査日	2025年10月18日 (土)	気温	12.7°C
調査時刻	08:30 - 17:00	水温	10.1°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>2025.10.18 08:48</p> <p>当日の調査地点付近の様子</p>		
	<p>終日にわたり調査ラインの周辺にカラフトマスを確認することはできなかった。サケについては橋下流側に3個体を確認した。</p>		

付表 2 (c). ルシヤ川およびテッパンベツ川における産卵床数調査日ごとの実施状況

第 1 回			
調査河川名	ルシヤ川	天候	快晴
調査日	2025年9月23日 (火)	気温	18.9°C
調査時刻	07:50 - 12:30	水温	13.1°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>3,200m地点付近の様子</p>		
	<p>調査2日前の9/21の増水により河床路下流側の落差がサケ類の遡上障壁になっていた。そのため、増水前に遡上したカラフトマスおよび産卵床を確認する調査となった。3,200m地点まで調査を実施したが、カラフトマスおよびその産卵床を確認することはできなかった。確認できたのはサケ4個体のみであった。</p>		

第2回			
調査河川名	ルシヤ川	天候	晴れ
調査日	2025年10月6日 (月)	気温	15.0°C
調査時刻	08:20 - 11:30	水温	11.6°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>3,200m地点付近の様子</p>		
	<p>9/23に実施した1回目の調査と同様に河床路がサケ類の遡上障壁となっている状態での調査となったが、河床路の下流側においてもカラフトマスおよび産卵床を確認することはできなかった。</p>		

付表 2 (c). 続き

第 1 回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	快晴
調査日	2025年9月23日 (火)	気温	18.9°C
調査時刻	12:40 - 15:20	水温	12.8°C
調査概要・ 周辺写真	 <p>2,100m地点付近の様子</p>		
	<p>2,100m地点まで調査を実施したが、カラフトマスおよびその産卵床を確認することはできなかった。</p>		

第2回			
調査河川名	テッパンベツ川	天候	晴れ
調査日	2025年10月6日 (月)	気温	15.0°C
調査時刻	12:30 - 14:50	水温	13.3 °C
調査概要・ 周辺写真	 <p>2,100m地点付近の様子</p>		
	<p>2,100m地点まで調査を実施したが、カラフトマスおよびその産卵床を確認することはできなかった。サケについては3個体および3床を確認した。</p>		

付表3. ルシャ川（上）およびテッパンベツ川（下）における調査日の時間帯ごとのカラフトマスの遡上数と降下数

回次	日付	開始	終了	遡上数	降下数	実遡上数	回次	日付	開始	終了	遡上数	降下数	実遡上数
1	9月26日	8:00	8:20	0	0	0	5	10月9日	8:05	8:25	0	0	0
		10:00	10:20	0	0								
		12:00	12:20	0	0								
		14:00	14:20	0	0								
		16:00	16:20	0	0								
2	9月29日	8:00	8:20	0	0	0	6	10月11日	8:00	8:20	0	0	0
		10:00	10:20	0	0								
		12:00	12:20	0	0								
		14:00	14:20	0	0								
		16:00	16:20	0	0								
3	10月2日	8:00	8:20	0	0	0	7	10月15日	8:00	8:20	0	0	0
		10:00	10:20	0	0								
		12:00	12:20	0	0								
		14:05	14:25	0	0								
		16:00	16:20	0	0								
4	10月5日	8:07	8:27	0	0	0	8	10月18日	8:03	8:23	0	0	0
		10:00	10:20	0	0								
		12:00	12:20	0	0								
		14:00	14:20	0	0								
		16:00	16:20	0	0								

回次	日付	開始	終了	遡上数	降下数	実遡上数	回次	日付	開始	終了	遡上数	降下数	実遡上数
1	9月26日	8:30	8:50	0	0	0	5	10月9日	8:28	8:48	0	0	0
		10:30	10:50	0	0								
		12:30	12:50	0	0								
		14:30	14:50	0	0								
		16:30	16:50	0	0								
2	9月29日	8:30	8:50	0	0	0	6	10月11日	8:30	8:50	0	0	0
		10:30	10:50	0	0								
		12:30	12:50	0	0								
		14:30	14:50	0	0								
		16:25	16:45	0	0								
3	10月2日	8:30	8:50	0	0	0	7	10月15日	8:30	8:50	0	0	0
		10:30	10:50	0	0								
		12:30	12:50	0	0								
		14:30	14:50	0	0								
		16:25	16:45	0	0								
4	10月5日	8:35	8:55	0	0	0	8	10月18日	8:30	8:50	0	0	0
		10:30	10:50	0	0								
		12:30	12:50	0	0								
		14:30	14:50	0	0								
		16:30	16:50	0	0								

付表 4. (a)ルシャ川の調査区間別の河床面積とカラフトマスの産卵床数および産卵床密度

区	点～点	点～ 河川工作物	川幅		河床面積 (m <sup>2</sup> )	1回目 (9月23日)		2回目 (10月6日)			
			計測地点	幅(m)		産卵床数	産卵床密度	産卵床数	産卵床密度		
0区	河口→0 (98.5m)		河口	29.5	1803	0	0.000	0	0.000		
			0	7.1							
1区	0→100		100	9.5	830	0	0.000	0	0.000		
2区	100→200		200	18.5	1400	0	0.000	0	0.000		
3区	200→300	200→1ダム	300	18.0	1825	0	0	0.002	0	0	0.000
		1ダム→300				0		0			
4区	300→400	300→2ダム	400	12.0	1500	0	0	0.001	0	0	0.000
		2ダム→3ダム				0		0			
		3ダム→400				0		0			
5区	400→500		500	8.6	1030	0	0.000	0	0.000		
6区	500→600		600	10.0	930	0	0.000	0	0.000		
7区	600→700		700	10.5	1025	0	0.000	0	0.000		
8区	700→800		800	7.1	880	0	0.000	0	0.000		
9区	800→900		900	9.4	825	0	0.000	0	0.000		
10区	900→1000		1000	10.1	975	0	0.000	0	0.000		
11区	1000→1100		1100	10.1	1010	0	0.000	0	0.000		
12区	1100→1200		1200	12.0	1105	0	0.000	0	0.000		
13区	1200→1300		1300	11.0	1150	0	0.000	0	0.000		
14区	1300→1400		1400	11.0	1100	0	0.000	0	0.000		
15区	1400→1500		1500	11.1	1105	0	0.000	0	0.000		
16区	1500→1600		1600	11.5	1130	0	0.000	0	0.000		
17区	1600→1700		1700	10.0	1075	0	0.000	0	0.000		
18区	1700→1800		1800	6.5	825	0	0.000	0	0.000		
19区	1800→1900		1900	12.5	950	0	0.000	0	0.000		
20区	1900→2000		2000	8.6	1055	0	0.000	0	0.000		
21区	2000→2100		2100	8.7	865	0	0.000	0	0.000		
22区	2100→2200		2200	9.3	900	0	0.000	0	0.000		
23区	2200→2300		2300	8.8	905	0	0.000	0	0.000		
24区	2300→2400		2400	13.0	1090	0	0.000	0	0.000		
25区	2400→2500		2500	13.5	1325	0	0.000	0	0.000		
26区	2500→2600		2600	18.0	1575	0	0.000	0	0.000		
27区	2600→2700		2700	6.9	1245	0	0.000	0	0.000		
28区	2700→2800		2800	7.9	740	0	0.000	0	0.000		
29区	2800→2900		2900	4.1	600	0	0.000	0	0.000		
30区	2900→3000		3000	5.4	475	0	0.000	0	0.000		
31区	3000→3100		3100	8.3	685	0	0.000	0	0.000		
32区	3100→3200		3200	11.0	965	0	0.000	0	0.000		

付表 4. (b)テッパンベツ川の調査区間別の河床面積とカラフトマスの産卵床数および産卵床密度

区	点～点	点～ 河川工作物	川幅		河床面積 (m <sup>2</sup> )	1回目 (9月23日)		2回目 (10月6日)	
			計測地点	幅(m)		産卵床数	産卵床密度	産卵床数	産卵床密度
0区	河口→0(50.0m)	-	河口	16.4	553	0	0.000	0	0.000
		-	0	5.7					
1区	0→100	-	100	9.2	745	0	0.000	0	0.000
2区	100→200	-	200	17.3	1325	0	0.000	0	0.000
3区	200→300	-	300	8.4	1285	0	0.000	0	0.000
4区	300→400	-	400	11.0	970	0	0.000	0	0.000
5区	400→500	-	500	11.4	1120	0	0.000	0	0.000
6区	500→600	-	600	13.0	1220	0	0.000	0	0.000
7区	600→700	-	700	10.0	1150	0	0.000	0	0.000
8区	700→800	-	800	8.8	940	0	0.000	0	0.000
9区	800→900	-	900	8.7	875	0	0.000	0	0.000
10区	900→1000	-	1000	9.0	885	0	0.000	0	0.000
11区	1000→1100	-	1100	6.7	785	0	0.000	0	0.000
12区	1100→1200	-	1200	10.0	835	0	0.000	0	0.000
13区	1200→1300	-	1300	5.6	780	0	0.000	0	0.000
14区	1300→1400	-	1400	9.3	745	0	0.000	0	0.000
15区	1400→1500	-	1500	8.2	875	0	0.000	0	0.000
16区	1500→1600	-	1600	6.4	730	0	0.000	0	0.000
17区	1600→1700	-	1700	7.3	685	0	0.000	0	0.000
18区	1700→1800	-	1800	7.1	720	0	0.000	0	0.000
19区	1800→1900	-	1900	5.9	650	0	0.000	0	0.000
20区	1900→2000	-	2000	4.2	505	0	0.000	0	0.000
21区	2000→2100	-	2100	3.0	360	0	0.000	0	0.000

付表 5. 令和7年度第2回河川工作物アドバイザー会議資料

令和7（2025）年度知床世界自然遺産地域科学委員会 第2回河川工作物AP

資料 2

## 令和7年度 長期モニタリング結果について （サケ類）

北海道森林管理局  
北海道  
公益財団法人 知床財団

北海道森林管理局：令和7年度知床ルシャ川等におけるサケ類の遡上数等調査事業  
北海道：令和7年度（2025年度）サケ科魚類モニタリング調査委託業務

1

令和7（2025）年度知床世界自然遺産地域科学委員会 第2回河川工作物AP

## 調査位置づけ・概要

- 知床世界自然遺産地域 第2期長期モニタリング計画  
モニタリング項目No.16  
「河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング」
  
- 対象種  
遡上数・産卵床数調査：カラフトマス  
稚魚降下数調査：カラフトマス、サケ
  
- 実施河川  
ルシャ川・テッパンベツ川 → 北海道森林管理局  
ルサ川 → 北海道
  
- 調査実施状況  
遡上・産卵床数調査と稚魚降下数調査をそれぞれ隔年実施  
遡上・産卵床数：2012年試行, 13, 15, 17, 19, 21, 23年  
稚魚降下数：2019年より試行、22, 24年

2

## 調査方法等

### ○遡上数調査

期間

ルシャ川・テッパンベツ川  
2025年9月26日～10月18日  
ルサ川  
2025年9月2日～9月27日

回数

- ・基本的に2～3日に1回
- ・各河川で8回  
(2019年まで18回、21年14回、23年より8回)

調査方法

- ・河口付近に調査ラインを設定
- ・08時～16時台までの2時間毎に20分間、ラインの上下流へ移動する親魚を目視カウント

遡上数推定

- ・横山ほか（2010）に従った2019年までの調査（1シーズン18～19回実施）をもとに算出



※当日の波浪、風向によりいずれかのラインで調査



3

## 調査方法等

### ○遡上数調査

遡上数推定法変更（調査回数縮減）の背景

- 2年に1度の遡上数カウント18～19回を省力化し、稚魚降下数調査へ充てられないか？

AUC法による推定遡上数は調査期間中のカウント数合計値と強い相関

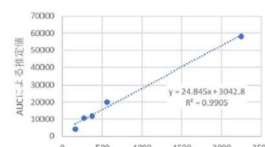
- 全期間を網羅しなくても、遡上ピーク時期がカバーできれば、この関係は維持されるのではないか



過去の年18回の調査データ(2012,13,15,17,19年の5年分)を使い、少ない調査回数で「カウント数合計値」と「推定遡上数」との間に高い相関が認められる調査回と調査回数を決定係数をもとにランク付け  
(唯一の豊漁年であった2013年は飛び値のため除外) ルシャ川・テッパンベツ川：4～11回目、ルサ川：5～12回または6～12回目



4～11回に統一、すなわち9月 第1～4週に8回の調査で推定 → ルサ川：4～11回  
ルシャ川・テッパンベツ川：10～17回で推定



ルシャ川1-17回目の遡上数合計値とAUC推定値の関係

4

付表 5. 続き

## 調査方法等



### ○産卵床数調査

産卵のピークを含む9月下旬と10月上旬

#### 実施日

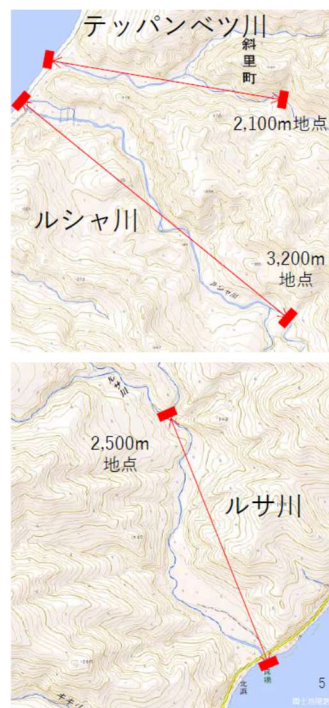
- ・ルシャ川・テッパンベツ川：9/23, 10/6
- ・ルサ川：9/20, 10/3

#### 調査範囲

- ・ルシャ川：～3,200m地点
- ・テッパンベツ川：～2,100m地点
- ・ルサ川：～2,500m地点

#### 方法

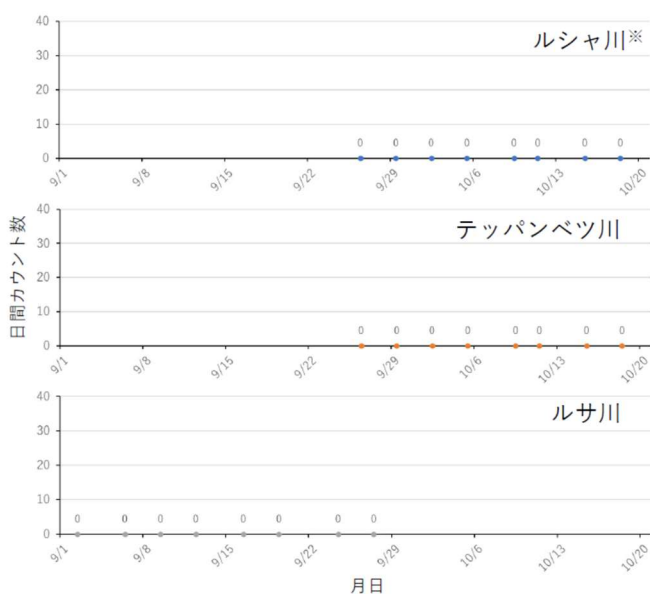
- ・河畔からの目視で100m区間ごとの産卵床をカウント
- ・100m間隔で川幅を計測し、河床面積を算出
- ・100m区間ごとに産卵床密度を算出



## 調査結果

※ルシャ川河床路決壊による落差により9/21～10/6は遡上困難

### ○調査実施日ごとのカラフトマスカウント数

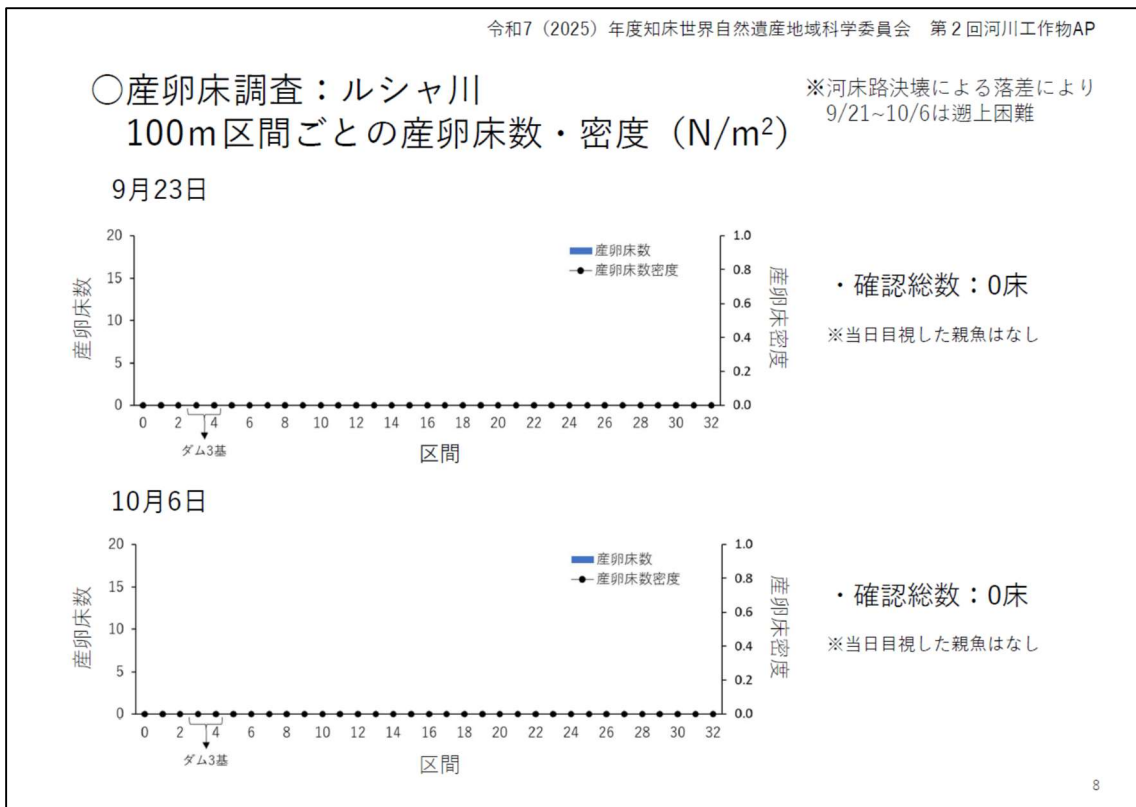
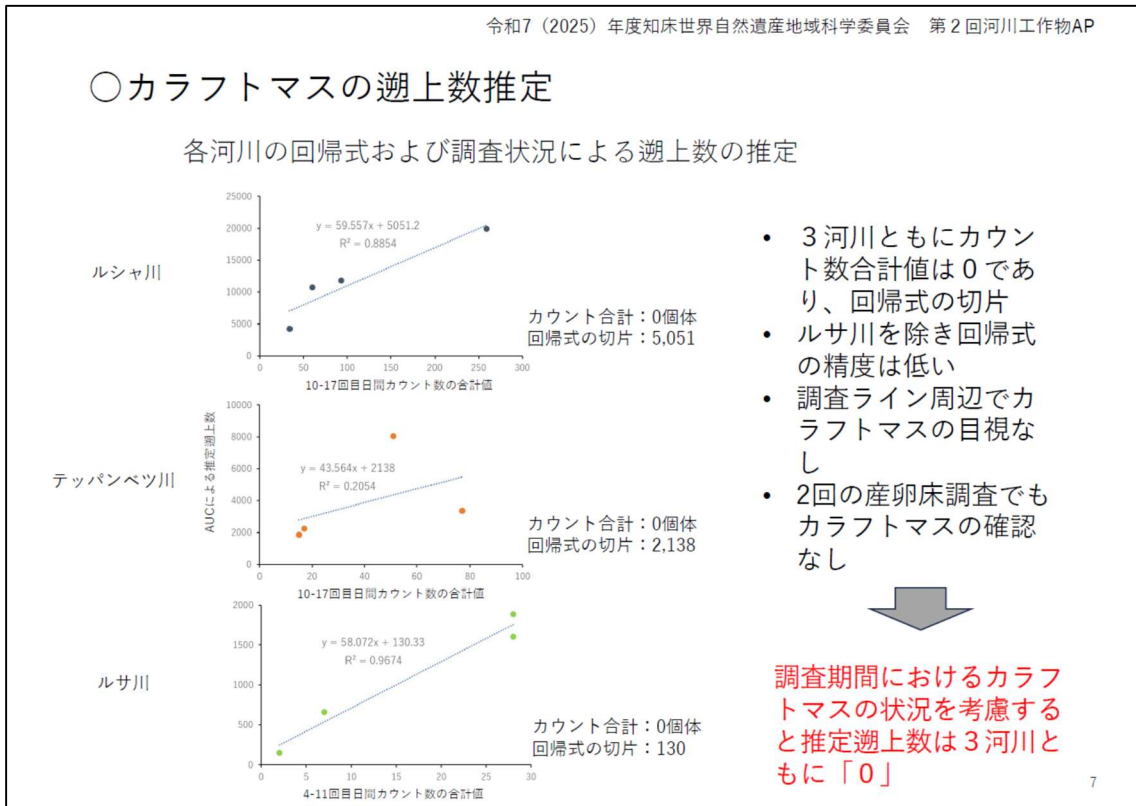


目視によりカウントされた8・10・12・14・16時台各20分間（計100分間）の遡上数－降下数の合計

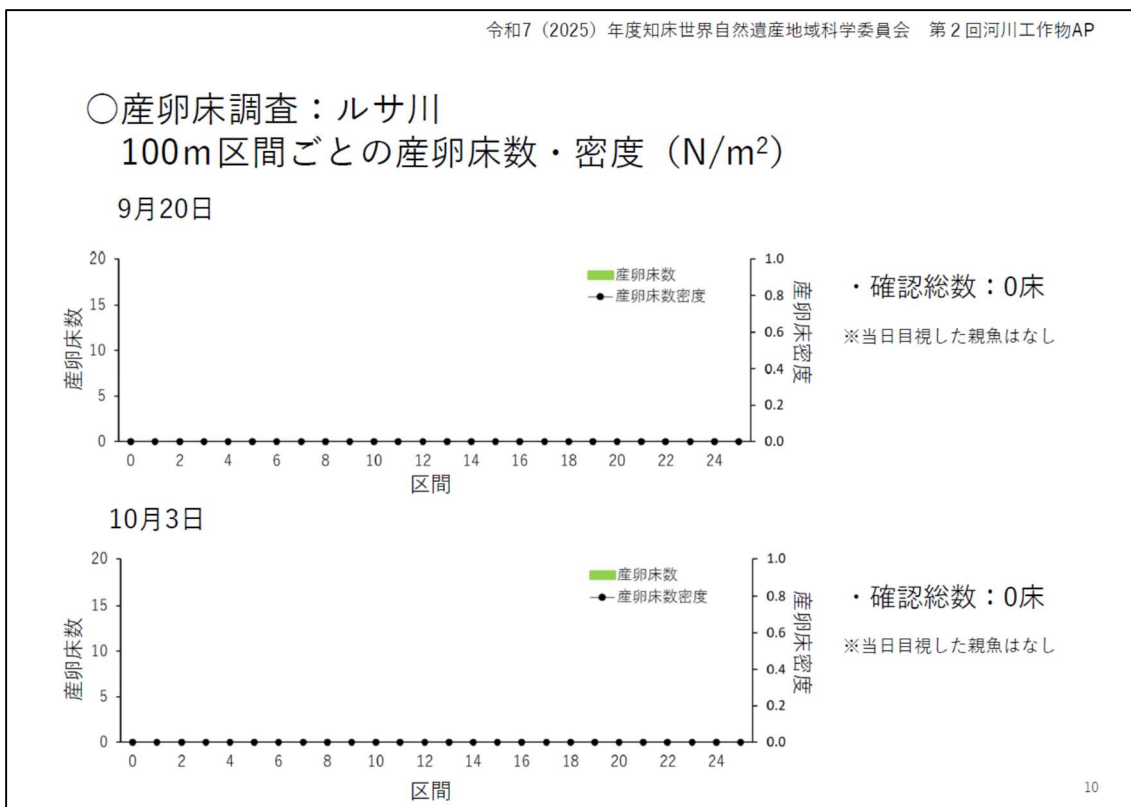
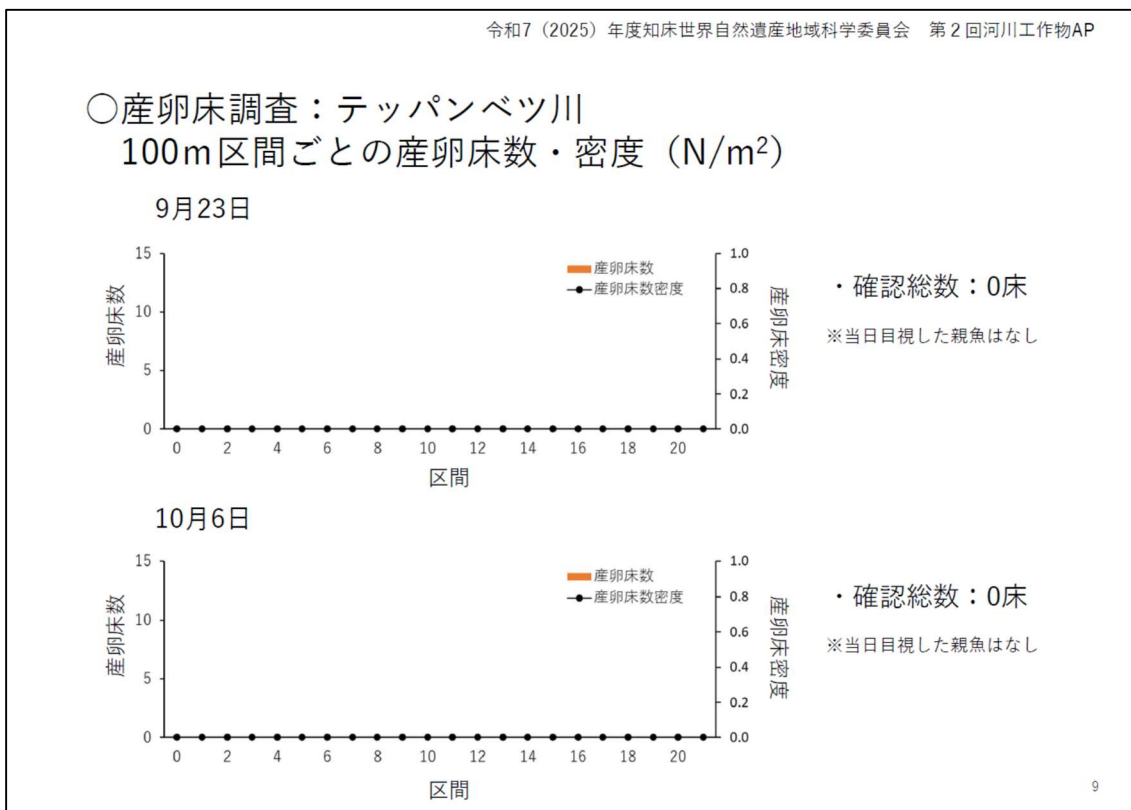
- ・3河川ともに調査期間を通して調査ラインの行き来なし
- ・調査ライン周辺でカラフトマスの目視なし

	カウント数合計
ルシャ川	0個体
テッパンベツ川	0個体
ルサ川	0個体

付表 5. 続き



付表 5. 続き



付表 5. 続き

○平成24（2012）年以降の推定遡上数の推移

年	ルシャ川		テッパンベツ川		ルサ川		
	推定遡上数	標準誤差	推定遡上数	標準誤差	推定遡上数	標準誤差	
H24	2012	19,905	2,885	3,369	570	147	46
H25	2013	58,236	6,366	43,332	6,558	20,430	7,425
H26	2014						
H27	2015	4,287	502	1,860	222	1,605	333
H28	2016						
H29	2017	10,737	1,007	2,241	286	1,884	302
H30	2018						
H31(R1)	2019	11,838	2,047	8,052	1,481	660	143
R2	2020	66,330	17,937	20,643	4,924		
R3	2021	10,686	2,346	5,232	1,292	18,802	5,058
R4	2022					769	
R5	2023	3,812	-	1,722	-	130	-
R6	2024						
R7	2025	0	-	0	-	0	-

※R2（2020）年データは環境研究総合推進費によるもの  
R4（2022）年ルサ川データは知床財団独自、回帰式により算出

- ・ ルシャ川、テッパンベツ川およびルサ川ともに0

11

○平成24（2012）年以降の産卵床数調査との比較

年	ルシャ川		テッパンベツ川		ルサ川		
	産卵床数	密度 (n/m <sup>2</sup> )	産卵床数	密度 (n/m <sup>2</sup> )	産卵床数	密度 (n/m <sup>2</sup> )	
H24	2012	379	0.011	273	0.015		
H25	2013	2,115	0.058	1,470	0.083	1,764	0.079※
H26	2014						
H27	2015	259	0.006	160	0.008	189	0.009
H28	2016						
H29	2017	348	0.010	211	0.011	250	0.012
※※H30	2018	682	0.019			728	0.038
H31(R1)	2019	728	0.021	249	0.017	338	0.038
R2	2020						
R3	2021	454	0.014	113	0.007	602	0.034
R4	2022						
R5	2023	143	0.004	44	0.003	34	0.002
R6	2024	6	0.00019	3	0.0002	1	0.00006
R7	2025	0	0.000	0	0.000	0	0.000

※H25年ルサ川は河床面積を出していなかったため、  
H28年大増水前のH27年の河床面積を代用  
※※H30、R6年の数値は、同手法を用いた知床財団の  
独自調査結果

- ・ ルシャ川、テッパンベツ川およびルサ川ともに0

12

付表 5. 続き

令和7（2025）年度知床世界自然遺産地域科学委員会 第2回河川工作物AP

※2024年稚魚調査は知床保安林管理道開通が遅れたこと等により降下盛期を逸したため、過去調査データにより引き延ばし（中央値（最大値・最小値））

### ○カラフトマスの再生産効率と回帰率

親魚の 回帰年	親魚数	翌年の 稚魚数	再生産効率 <small>(翌年の稚魚数/親魚数)</small>	稚魚の年級	稚魚数	翌年の	
						回帰稚魚数 <small>(回帰稚魚数/稚魚数)</small>	回帰率 <small>(回帰稚魚数/親魚数)</small>
<b>ルシャ川</b>							
2019	11,838	414,885	35.05	2020	414,885	10,686	0.03
2020	66,330	67,883	1.02	2021	67,883		
2021	10,686	21,200	1.98	2022	21,200	3,812	0.18
2022				2023			
2023	3,812	-	-	2024	-	0	0.00
2024				2025			
2025	0						
<b>テッパンベツ川</b>							
2019	8,052	151,733	18.84	2020	151,733	5,232	0.03
2020	20,643	29,291	1.42	2021	29,291		
2021	5,232	33,555	6.41	2022	33,555	1,722	0.05
2022				2023			
2023	1,722	130,309	75.67	2024	130,309	0	0.00
2024		(5,956-254,662)	(3.46-147.89)	2025	(5,956-254,662)		
2025	0						
<b>ルサ川</b>							
2019	660	113,702	172.28	2020	113,702	18,802	0.17
2020		50,318		2021	50,318		
2021	18,802	256,557	13.65	2022	256,557	130	0.001
2022				2023			
2023	130	19,833	152.56	2024	19,833	0	0.00
2024		(10,383-29,283)	(79.87-225.25)	2025	(10,383-29,283)		
2025	0						

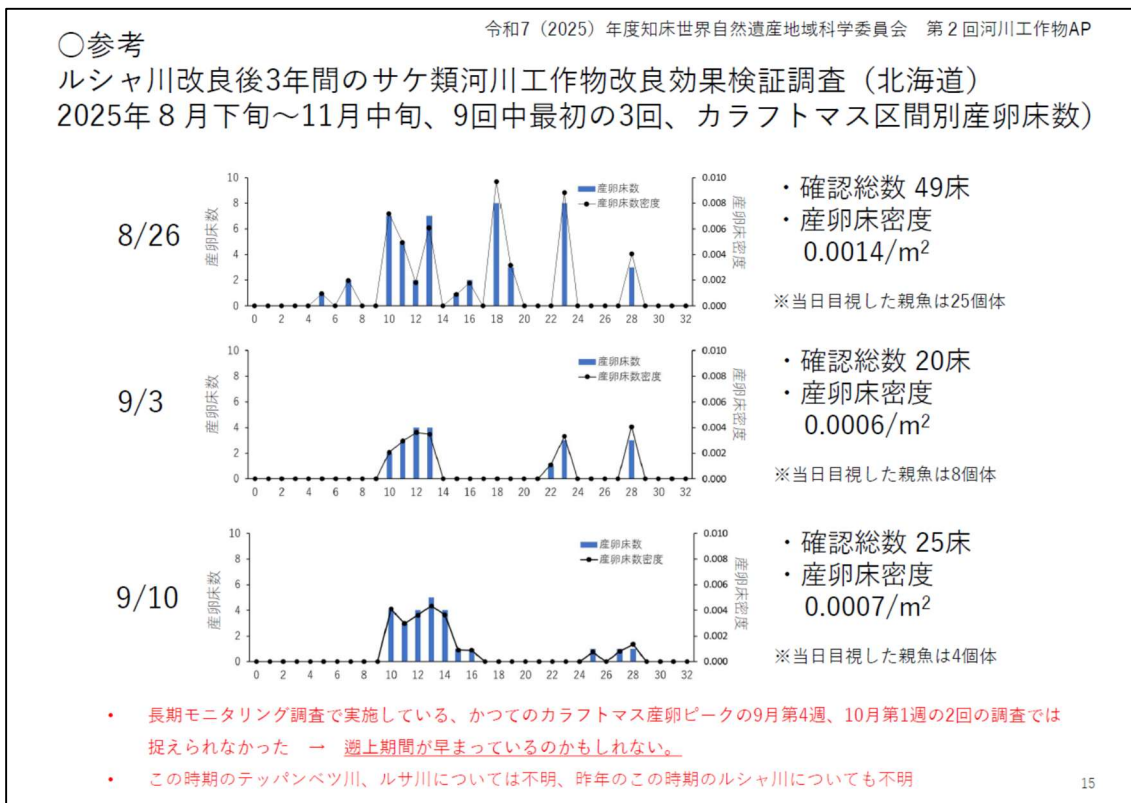
• 2024年稚魚の回帰率は3河川ともに0

令和7（2025）年度知床世界自然遺産地域科学委員会 第2回河川工作物AP

## まとめ

- ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川ともに調査ライン周辺でのカラフトマスの目視はなく、カウント数合計値は0
- 9月下旬と10月上旬に実施した2回の産卵床調査で3河川ともに産卵床、親魚の確認なし
- 従来からの調査時期や期間に実施し、得られた結果からはカラフトマスの推定遡上数および産卵床数は3河川ともに0（2012年のモニタリング開始以降で初）
- 2024年降下稚魚の回帰率は3河川ともに0

付表 5. 続き



令和7年度 北海道森林管理局 委託事業

事業名：令和7年度知床ルシャ川等におけるサケ類の遡上数等調査事業

事業期間：令和7年（2025年）7月3日～令和8年（2026年）3月10日

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531

知床自然センター内



リサイクル適性の表示：印刷用の紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [A ランク] のみを用いて作製しています。